

生活を創り、「絆」を紡ぐ仲間を募集しています！

私たちの仕事は、「おはよう」から「おやすみ」まで、あたりまえにある毎日の生活の営みの中で子どもたちに寄り添い、一緒に笑ったり、ケンカしたり、泣いたり、怒ったり、喜んだり…、そんな日々のやりとりを積み重ねて、子どもの成長を支え自立を応援していくというものです。子どもたちから教わり学ぶことの方が多く、仲間とつながり自分自身が鍛えられ、人間的に大きく成長することができる奥深い仕事です。

Aさんは自分の話を聞いて欲しい思いがっぱいの中学生。学校から帰ってすぐに自分の話を聞いてもらいたいけれど、同じ部屋には小学生や幼児さんがいて、なかなか思い通りにはなりません。Aさんは「なんで聞いてくれんの!？」と、イライラして荒れることがしばしばありました。担当職員はAさんと「思い通りにいかずイライラしそうな時にどうするか」を話し合い、「イライラしたら自分の部屋に入って音楽を聴く」など、Aさんがやれると思う方法を一緒に考えました。それから、それをやってみてどうだったかを毎日振り返って話し合い続けました。担当職員は、荒れても自分の気持ちを説明できたことや、気持ちを切りかえる時間が早くなったことなど、どんな小さいことでもAさんが工夫していること、努力していることを肯定的に伝え続けました。

初めは「うちはどうせできん人間なんじゃけえ!」と言っていたAさんでしたが、頑張りを認め応援し続けることで、「今日できたかね?」と確認するようになり、「自分で落ち着けたよ、当たり前なことじゃけえ」「成長したよね」と自分で自分を認められるようになっていきました。そして、年下の子がイライラして荒れた時に「話聞こうか?」と声をかけ、「うちはこうしているよ」と話すほどになりました。

Aさんが高校を卒業して『きずなの家』を旅立つ時、「みんなの応援でここまで私が成長しました」「泣き虫ですぐに怒る私ですが、くじけずに頑張っていきます」と手紙に書いてくれました。今は社会人として頑張っているようです。

児童養護施設で生活する子どもたちは、みな様々に分離や喪失の過酷な体験をしていますが、どの子も“自分が大切にされている”と感じることができれば、それぞれが本来持っている力を発揮することができます。ほんとうにやさしくてたくましい子どもたちです。このような子どもたちと個性豊かな私たち職員と、広島修道院で楽しい生活を創り、「絆」を紡ぐ仲間入りをしてみませんか。あなたとの出会いを心待ちにしています！